

平成 24 年度第 5 回御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会

日 時：平成 25 年 2 月 20 日（水）午後 1 時 30 分～ 3 時 45 分

場 所：林業会館 第 1 研修室

出席委員：渡邊恵子・前田慶子・勝亦祐貴・志水香苗・湯山有朋・高杉静代・
日比野和代・小山田誠・勝間田和子・小宮山なほみ・鈴木章司・
山崎喜三・滝口芳幸・木島直久・勝間田守正・杉山保子

アドバイザー：牛山久仁彦 明治大学教授

事務局：高杉次長・瀬戸統括・鈴木主事

1 開会（勝間田和子副会長）

2 あいさつ（渡邊恵子会長）

3 補助金事業報告について

- (1) 平成 24 年度市民協働型まちづくり事業補助金事業の終了事業の報告
事務局より、評価用紙記入方法などを説明。全体の終了後に回収。

『元気いっぱい おかみさん市』（御殿場おかみさん会）

委員 A：団体側は評価で「もっと内容を協議したい」として、前向きな面がみられる一方今まで行政が積み重ねてきたノウハウが活かしきれ
ていない印象を受けた。行政側への要望としてもっと前向きであってほ
しい。6 月の審査時に協力者たちの昼食代を下げるという決定をしたが、
そのことで不満はあったか。

団体：スタッフ側の人々は朝の 6 時から夕方 6 時ごろまで働き詰めで、
1,000 円の昼食はかわいそうだった。（不満の声があったという回答はな
し）

委員 A：1,000 円という金額を埋める他の要素・工夫はあったか。

団体：1,000 円は会場で使える買い物券という形なので、何にでも使え
るという意味で良かった。

『スポーツしよう～富士の麓で手をつなぐかい！～』（駿腕）

委員 B：団体側は企画準備段階から色々と努力をしていた。当初の目的
は車いすや障害者の方々を取り入れることだったが、これからの関わり
は。

団体：以前からそれらの方々との関わりを進めていきたいと思っており、

現在も障害者の方がチームに所属しているので、その方を中心に色々と活動していきたい。多くの方にもう少し興味を持っていただけるようにしたい。

委員 A：行政の評価「あまりできなかった」がある。行政側に、相互に要望を伝え合い団体を育てるという意識の有無や、開催して見えたことを聞きたい。

文スポ：当初の打ち合わせで、団体の組織が弱いという認識があった。団体の思いが強かったので、イベント自体は成功したと思う。契機づけとしてはよかったので、今後は団体目線で活動していきたい。

委員 A：協働を通しこの競技を広めていこうという思いに至ったか。

文スポ：理解が深まった。拡充できるように支援したい。

委員 C：腕相撲は健常者・身障者に関係なく、両者が同じステージで行うほかにはないスポーツである。

4 協議事項について

(1) 御殿場市職員意識調査について

事務局より資料に基づき説明（回答率：H22 91.4%、H24 79.5%）

委員 A：副主任・副参事がピンポイントで回答率が低い。

委員 D：回答率を挙げてきちんとした数字を出すことが大切。

委員 E：職員の質の低下ではないか。

教授：副主任・副参事の低回答率について検討が必要。

委員 F：全体での数字なので、市民協働を取り上げにくいセクションでの業務取入意思が下がるのは当然では。

委員 G：インターネットで回答。回答率が悪いのか人事課より2回催促があった。

委員 H：この結果を踏まえこれをどうするかが大切。職員の中にも誠実に取り組んでいる人がいることは理解してほしい。

委員 A：市民協働に関するアンケート結果を職員に発信することができないか。職員研修で事あるごとに伝えることはできないか。

事務局：一番言いたいのは言葉の意味を知らない職員は減っているという部分。どのようなことができるか検討したい。

(2) 平成25年度市民協働型まちづくり事業募集について

事務局より資料に基づき説明

委員 E：行政提案はやるのか やる

広報4月5日号をもう少し早められないか 議会の都合

委員 I：予算は 26 年度も減るのか

事務局：実績を踏まえ予算決定。全体的に削減傾向。

委員 A：市民協働は他の予算を減らして持っていくべき分野。協働の志向からすると逆行している。

委員 A：既存事業を市民協働の土俵に乗せられないか。行政提案が今年度ないので、1 つの考えとして委員に評価してもらえば。

事務局：色々な根本的考えがある。協議会は市全体を評価する場ではない。

委員 D：年度をまたぐ予算措置の在り方に疑問。団体募集をしてから予算措置ができれば。

(3) 平成 24 年度まちづくり推進協議会事業収支報告見込みについて

事務局より資料に基づき説明。25 年度第 1 回目を平日(19 日)開催了承。

委員 A：事前説明会に参加したが、実態が非常に少なかった。

事務局：今は新規の団体が来ている時期。敷居が高いのか分からない。関心が持てるよう工夫・PR 等していきたい。

委員 J：はじめの一步がなかった。そこがもっと充実すれば。周知期間が短い。

事務局：今後検討したい。

委員 B：予算が確定していない中で多数の団体に働きかけにくい。

(4) 「NPO 法人 土に還る木・森づくりの会」コミュニティ活動賞受賞について

事務局より資料に基づき説明

H20,21,22 市の補助金を使った

H23,24 ステップアップし、「緑の募金」補助金

5 その他

事務局より御殿場市市民協働型まちづくり推進協議会委員改選について説明。団体に依頼する旨も説明。

事務局より本日報告団体以外の 3 団体についての補助金事業進捗状況報告。

事務局より牛山教授が来年度もご協力いただけることの報告。

湯山委員より支援センター宣言事業所登録と男女共同参画講演の紹介。

6 閉会（山崎喜三副会長）